

「学校全体で語彙を豊かにする2026」Q&A

福島県教育委員会

Q1 なぜ「学校全体で語彙を豊かにする2026」を作成したのですか？

A1 人は言葉を用いて思考し、物事を理解し、自分の考えを他者へと伝えます。言葉は単なる伝達手段ではなく、「思考の道具」「コミュニケーションの道具」でもあります。そのため、語彙を豊かにすることは、学習のみならず、円滑な人間関係や社会性を育む上でも極めて重要なものです。

授業においても、子どもが、そこで使われる言葉の意味を分かっているなければ、学習内容の理解が困難になるだけでなく、知的好奇心や学習意欲さえも損なわれかねません。一方で、理解し活用できる言葉が増えれば、見える世界が広がり、学習に対する自信と主体性を育むことにもつながります。

「学校全体で語彙を豊かにする2026」は、語彙を豊かにすることの重要性を福島県の先生方全員で再確認し、児童生徒の語彙を豊かにする指導を学校全体で継続的に充実させていくことを目指して作成しました。

Q2 語彙を豊かにするために大切なことは何ですか？

A2 語彙を豊かにするためには、語彙の量を増やすことが不可欠です。しかし、それが単なる言葉の暗記で終わってはいけません。なぜなら、子どもたちが実感や実体とつながりながら言葉を身に付けていく過程が大切だからです。具体的には、「体験」や「実物」、「具体的なイメージ」、「図表やグラフ」、「数量や数式」、「記号」などと言葉とがつながることをイメージさせたいものです。

そのためには、先生方や周囲の大人が、取組例に挙げたような具体的な働きかけを継続し、実感や実体と言葉とを丁寧につなげる架け橋となることが重要です。

同時に、子どもが言葉を「自ら使ってみる(アウトプットする)機会」を意図的に設けることも大切にしたいものです。子どもの「表現したい」「理解したい」という意欲や好奇心に寄り添い、目的意識や必要感をもった活動の中で、子どもたちが主体的に言葉を選び、活用できるようにすることで、確かな語彙となっていくます。日々の授業や生活の中で自分の思いを伝え合い、他者から共感される「伝わった」という成功体験は、子どもたちの主体性をさらに育んでいきます。

Q3 学習指導要領で「語彙」はどのように位置付けられていますか？

A3 小学校・中学校学習指導要領(平成29年告示)解説国語編には、語彙がすべての教科等における資質・能力の育成や学習の基盤となる言語能力を支える重要な要素と位置付けられており、語彙の量と質の両面からその育成を図る指導の改善・充実が強調されています。小学校低学年における学力差の背景には、語彙の量と質の違いがあるとの指摘も挙げられています。

また総則においても、語彙を含む言語能力を学習の基盤と捉え、その育成を図るため、教科等横断的な視点から教育課程の編成を求めていることにも注視したいと考えます。

Q4 どのように取り組んでいけばよいですか？

A4 まずは、先生方で「学校全体で語彙を豊かにする2026」や、この「Q&A」を読み合い、語彙を豊かにすることの重要性について共有します。その上で、取組例を参考に、学校全体で語彙を豊かにする取組への展開につなげてほしいと思います。

また、持続可能な取組にすることも大切です。一過性の取組ではなく、日々の教育活動の中に無理なく組み込んでいくことを念頭に置いてください。既に実践している場合は、今後も継続するとともに、その成果や意義を校内や周囲の学校と積極的に共有していただければ幸いです。

「学校全体で語彙を豊かにする2026」は、校内の先生方の目に留まる場所に掲示したり、週案のファイル等に挟んだり、校内のグループウェアで共有したりするなどして、繰り返し確認できるようにすることをおすすめします。

Q5 なぜ「学校全体」で取り組んでいく必要があるのですか？

A5 語彙は短期間ですぐに豊かになるものではありません。毎日言葉とつながる経験を積み重ねていくことで、少しずつ子どもたちの語彙が豊かになっていくものと考えます。そのためには、個々の授業者の指導に委ねるだけでなく、学校全体で指導の方向性を共有し、継続的に指導していくことが不可欠です。すべての教科等の授業や教育活動のあらゆる機会を捉えて、子どもの語彙を豊かにする取組を進めてほしいと思います。

Q6 なぜ、小学校低学年への指導について取り出して書かれているのですか？

A6 特に、小学校低学年においては、入学以前の生活環境や読書習慣の差が、語彙の量の差として顕著に現れると言われています。この語彙の量の差は、学習を進める上でのハンデとなり、その後の学習理解の差を広げる要因になるとも指摘されています。したがって、この時期の子どもたちの語彙の獲得を手厚く支援することは、将来にわたる学びの土台をつくるとともに、すべての子どもたちに等しく学びの機会を保障する観点からも極めて重要です。また、この時期は、たくさんの人と関わりながら、たくさんの語彙を獲得する時期でもあることから、小学校低学年の指導を重視し、取り出して記載することにしました。

もちろん、ここに記載した取組は、小学校低学年以降でも発達の段階に応じて取り組んでいたきたいと考えています。

Q7 「子どもたちの言葉、こんな可能性はありませんか？」(資料右下)の部分を詳しく教えてください。

A7 授業の中で先生方が使う言葉は、子どもたちに正しく理解されているでしょうか。例に挙げたように、先生方が何気なく使っている言葉が、子どもたちの生活経験の違い、授業や教科特有の言葉の理解不足のために、正しく理解されずに使われている可能性があります。資料に記載した内容をきっかけに、授業で使っている言葉を見つめ直す機会としてほしいと思います。(中央教育審議会教育課程部会第5回国語ワーキンググループ資料を参考に作成)

Q8 なぜ「2026」とあるのですか？

A8 語彙を豊かにするためには、継続的な取組が欠かせません。毎年度発行することで、その重要性を繰り返し共有し、学校全体での取組を継続させていくことを目指しています。必要に応じて内容をアップデートしながら、次年度以降も発行する予定です。

Q9 読書活動についての記述がないのはどうしてですか？

A9 子どもたちの語彙を豊かにするために読書活動の推進ももちろん大切です。各学校においては、読書活動の一層の推進に取り組んでいただきたいと思います。「学校全体で語彙を豊かにする2026」は、各学校における読書活動の推進を前提として、読書活動以外の取組に焦点を当てて作成しました。

福島県教育庁義務教育課ホームページ
(本取組に関するページ)

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/70056a/yutakanagoi.html>

